

# 元ベルリン・フィル 首席オーボエ奏者 ハンスイェルク・シェレンベルガーに聞く カメラータ・ザルツブルクの魅力

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席オーボエ奏者として20年以上にわたってオーケストラを支えたハンスイェルク・シェレンベルガー。カラヤンからアバド時代の「顔」の一人だ。現在は指揮者としても活動の場を広げる彼が、室内オーケストラの名門「カメラータ・ザルツブルク」を率いてやってくる。

——神奈川県立音楽堂にはどんなイメージを持っていきますか？

アンサンブル・ウィーン・ベルリンで演奏したのをよく憶えています。温かいアコースティックがいいですね。モダンなみなとみらいホールとは対照的な、ちよつとオールド・ファッションで美しい雰囲気も、私は好きです。

——あなたにとって、カメラータ・ザルツブルクはどんなオーケストラですか？

その答えは簡単。愛しています(笑)。

いわば室内オーケストラのベルリン・フィル。世界一です。初めて指揮をしたのはたしか2006年頃ですが、彼らとの関係はたいへん古いのです。なぜならまだシャンドール・ヴェーグが芸術監督だった時代から、独奏者として共演してきましたから。このオーケストラは1970年代末から



A.カルボナーレ

のヴェーグの時代に、演奏団体としてのキャリアでも、音楽面でも、急激に成長しました。官能的で、でもエネルギーを秘めたトーンが作り出されたのです。ヴァイオリン奏者のほとんどが、ヴェーグのモーツアルテム音楽院の生徒たちで、まるで家族のような関係が築かれています。ヴェーグのあと何人かのシエフが就任しましたが、残念ながら必ずしもうまくいかず、それで彼らは今、首席指揮者を置かず、プロジェクトごとに指揮者を呼ぶスタイルを選んだのです。

——神奈川県立音楽堂のプログラムについて教えてください。

「ナンネル・セプテット」とも呼ばれる七重奏の《デイヴェルティメント第11番》は、私がオーボエを吹きながら指揮をします。クラリネット協奏曲、そして有名なト短調の交響曲第40番はもちろん私が指揮します。

クラリネット協奏曲のソリスト、アレックス・カルボナーレは、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団の首席奏者ですが、実はベルリン・フィルの新メンバー候補だったことがあるんで

すよ。でも、使っている楽器のシステムが違っただけです。彼の吹いているクラリネットはベーム式(フランス式)ですが、ベルリン・フィルはジャーマン式なので、それだけが問題でした。

——交響曲第40番には、初稿版と、クラリネットが加わる改訂版があります。

初稿版での演奏です。はつきりした理由があります。あとからクラリネットを加えたのはもちろんモーツアルト自身ですが、それは、親しい友人だったクラリネット奏者のアントン・シュタードラーがオーケストラの中で吹きたいと言ったからなんです。音楽的な判断よりも、友人への親切心だったわけです。初稿版のオーボエの旋律が途中でクラリネットに移ったり戻ったりして、有機的ではありません。



6月某日、都内にて

作曲家の生地ザルツブルクのオーケストラが弾くモーツァルトには、何か特別なものを感じますか？

モーツァルトの音楽を非常に深く理解しているのはアメーディングです。ヴェーグの伝統がたくさん残っていると感じます。特に弦楽器で、彼はスペシヤルなモーツァルト・サウンドを作り出しました。ボウイングの語法が違う。ボウイングはすなわちアーティキュレーションであり、それは音楽です。彼らのボウイングがベストなフレージングを生みます。オーケストラはまだその伝統を持っているのです。とても幸せなことです。

モーツァルトを演奏する時は、指揮とオーボエのどちらが楽しいですか。

まったく違うものなので比べられません。オーボエを吹くのは呼吸と同じ、言葉話すのと同じですが、指揮にはもっとトータルな楽しさがあります。

指揮をするようになり、オーボエとの向き合い方に変化はありますか？

いいえ。実はオーボエと指揮はほぼ同時に始めたのです。17歳の時にオーボエでドイツの青少年コンクールに優勝した直後、アメリカのインターローケンのミュージック・キャンプに参加して指揮を学び始めました。それからずっと、オーボエと指揮を並行して勉強していたのですが、音楽家としてはオーボエのほうが先に成功し始めたわけです。ベルリン・フィルに入団した時に、オーボエに集中

することを決めて、指揮は中断しました。再開したのは1995年、イタリアのパドヴァ・ヴェネト管弦楽団でした。

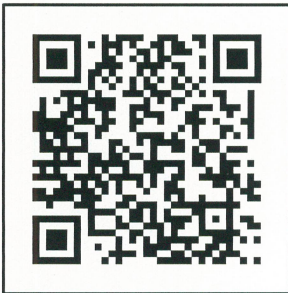
指揮者としては今後どんなレパートリーを望んでいますか？

オペラには取り組んでゆきたいですね。ただ、オペラ劇場での経験がないので、まだ信頼がないでしょう。やるならばしばらくは歌劇場からのオファーではなく、自分のプロダクションでということになると思います。いま進んでいるのは《コジ・ファン・トゥツテ》です。きちんと準備をして、素晴らしい上演ができると思っています。

楽しみにしています。

(取材・文宮本明)

## ハンスイェルク・ シェレンベルガーより メッセージ動画が到着!!



YouTubeチャンネル  
ongakudo kanagawa

音楽堂のホームページでも  
ご覧いただけます。

神奈川県立音楽堂

検索

ザルツブルク音楽祭の常連、カメラータ・ザルツブルクが音楽堂に初登場！  
芸術の秋に、生誕260年を迎えるモーツァルト本来の響きを  
「東洋一の響き」と評された木のぬくもり溢れる音楽堂で体感してみたいはいかがでしょうか。

# ハンスイェルク・シェレンベルガー指揮 カメラータ・ザルツブルク

＜オール・モーツァルト名曲プログラム＞

ディヴェルティメント 第11番 二長調 K.251  
クラリネット協奏曲 イ長調 K.622  
(クラリネット独奏：アレッサンドロ・カルボナーレ)  
交響曲 第40番 ト短調 K.550

＜全席指定(税込)＞

一般7,000円  
シルバー ~~7,500円~~ 5,500円  
学生(24歳以下)4,000円

2016年11月26日(土) 15:00開演(14:30開場)

● 神奈川県立音楽堂 (JR桜木町駅徒歩10分)

チケットの  
お問い合わせ

チケットかながわ  
(10:00~18:00)

0570-015-415

WEB | <http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/> (24時間)

窓口 | 神奈川県立音楽堂 (13:00~17:00月曜休) 神奈川県民ホール、KAAT芸術劇場(10:00~18:00)

主催：神奈川県立音楽堂[指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団]